

# 個店用の自動発注システム

## 東邦薬品「ミザル」簡易版

東邦薬品は今春、発注・在庫管理・棚卸の効率化ができる薬局本部システム「ミザル」の簡易版をリリースした。既に提供している「ミザル」から複数のグループ店舗と在庫共有・デッドストック（余剰在庫）品を共有できる本部機能を除いた、自動発注機能に特化した1店舗用の専用パッケージ版である。薬剤師に対物業務から対人業務へのシフトチェンジが求められる中、「ミザル」簡易版は、人が行う業務を自動化して、薬剤師が働きやすい環境を作ることで薬局DXの推進をサポートする。

同システムは、需要予測・来局予測による自動発注機能を備えているのが特徴だ。前回処方をもとに、次回来局日に処方される内服薬の調剤予定数量と発注時点の在庫数量を比較し、在庫が足りない場合に自動で発注される。対象患者の来局予定日前に処方薬を揃えることが可能で、処方データをもと

に必要な数量を決められた曜日と時間に自動発注できるため、発注作業にかかる時間を大幅に削減できる。簡易版では自動発注品の納品指定日を選択することが可能になった。

これまでの発注スタイルは、薬剤師や特定の発注担当者が空箱から適宜発注することが多かったため、在庫の最適化ができずに欠品や急配のリスクが発生するなど、対物業務の比重も高く長時間労働につながる傾向にあった。ミザルのデータに基づいた発注スタイルでは、自動発注を利用することで発注頻度が最適化され、発注業務の効率化が実現し、薬剤師や特定の発注担当者の働き方を変えることにつながり、対人業務に時間を充てることが可能になる。

調剤頻度分類によって薬品群を仕分けできる機能もあり、同社グループ薬局でのデータを分析した結果、週1回以上必ず調剤する医薬品を自動発注に



登録することで、処方金額の約7割の発注を自動化することが可能になった。

そのほか、使用期限・ロット管理機能により、不動在庫のリスクを軽減する成果も期待でき、納品データによる使用期限・ロット管理によって不動在庫による廃棄損を減らすことも可能だ。

医薬品発注・情報端末機「Future ENIF」と連動すると、通常の薬局業務を止めずに棚卸作業を行う循環棚卸機能が利用できる。少人数かつ数日にわけて棚卸業務を行うことで、人や残業時間を最小限に抑えることができる。

# AI画像処理で一包化薬を鑑査

## メディング「Meding Eye」

メディングでは、一包化錠剤比較カウントシステム「Meding Eye」を発売している。AI画像処理を用いて薬包内の薬の数・形・色・面積・異物を自動判別するシステム。まず目視で鑑査した1包目をマスタ登録し、2包目以降を1包目のマスタと比較して判定結果を表示する。特に難しい操作もなく、誰でも簡単に使用することが可能であり、薬局の現場で活用した際には、一包化鑑査業務の「負担軽減」「不安軽減」「業務効率化」といったメリットをもたらすなど、注目のシステムと言えよう。

高齢化社会が進む日本では一包化のニーズが高まっている。薬を分包する際には、「正しい数で分包されない」「異物が混入してしまう」といったケースもあり、薬剤師は一包化された薬を誤った状態で提供しないよう、薬

包内のすべての薬を目視でチェックしている。

同社によると、業務の負担や薬剤師の不安を減らすために、「一包化薬についても鑑査システムを導入して機械に任せたい」と考えている薬局は多くある状況。しかしながら、「一包化の鑑査システムを販売しているのはまだ数社で、費用や設置スペース等の問題で導入できない薬局が多いのが現状」（同社）だという。

そうした中で同社は今回、安価でコンパクトな導入を後押しできる業務支援システムとして、「Meding Eye」を開発した。

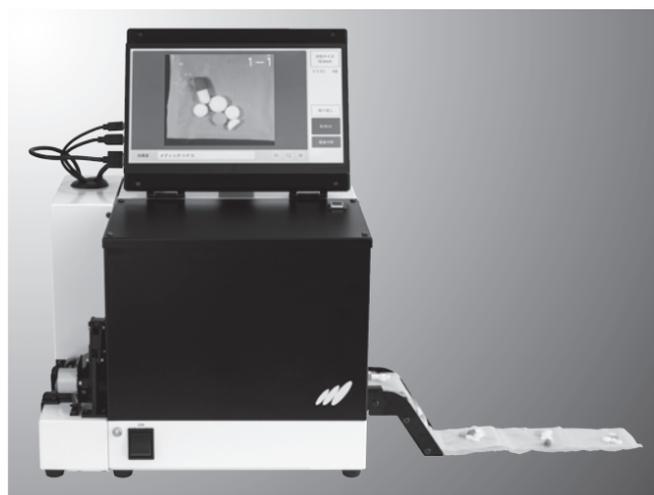
「Meding Eye」は、1包目をマスタ登録し、つながる薬包内の薬をマスタと比較。薬包内の薬の数・形・色・面積・異物を判別する。また、場所を選ばないコンパクト設計のため、省ス

ペースな調剤薬局でも設置することができる。

AI画像処理により、分包紙に印字があっても白帯が入った分包紙でもカウントできる。1包ずつ画像記録を残すため、患者からの問い合わせに対して再確認が可能であることも特徴。

さらに、NG判定となった場合に自動でならし機能が発動。NG判定となった薬包に目印のスタンプを押すことでNG分包をスムーズに見つけ出すことができる。

今後、高齢化が進むと共に薬剤師の一包化のニーズも高まり、さらに一包化鑑査業務の負担が増えていくことが考



えられている。

そうした中で同社は、「現在、ほとんどの薬局が人の目だけで行っている一包化鑑査についても、人と機械のダブルチェックで行うことがスタンダードになる時代を見据えて、今後さらに機能拡充を目指し、薬剤師の鑑査業務をサポートできる製品作りをしていきたい」とする。

# 第57回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)



兵庫医科大学薬学部

〒650-8530 神戸市中央区港島一丁目三番六号 電話 〇七八(三〇四)三〇〇〇



神戸薬科大学

〒658-8558 神戸市東灘区本山北町四一九番一 電話 〇七八(四五三)〇〇三一



立命館大学薬学部

〒525-8577 滋賀県草津市野路東一丁目一 電話 〇七七(五六一)二五六三



京都薬科大学

〒607-8414 京都市山科区御陵中内町五 電話 〇七五(五九五)四六〇五



新潟薬科大学

〒956-8603 新潟市秋葉区東島二六五番一 電話 〇二五〇(二五)五〇〇〇番



湘南医療大学薬学部

〒244-0806 横浜市戸塚区上品濃一六一番 電話 〇四五(八二二)二三〇〇番



横浜薬科大学

〒245-0066 神奈川県横浜市戸塚区俣野町六〇一 電話 〇四五(八五九)一三〇〇



明治薬科大学

〒204-8588 東京都清瀬市野塩二丁目二番一 電話 〇四二(四九五)八六一一番代